

# 第56回農林水産祭

農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくために、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催して、昭和37年から実施され、今年で56回目となります。

過去1年間の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞された方の中から、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会长賞が選ばれます。

林産部門では67の出品財から厳正な書類審査及び現地審査を経て、天皇杯に林田喜昭氏（宮崎県児湯郡川南町）、内閣総理大臣賞に森下廣隆氏（静岡県浜松市）、日本農林漁業振興会会长賞に東河内生産森林組合（兵庫県宍粟市）が選出されました。

はやしたよしあき

## 平成29年度 天皇杯



林田喜昭氏

(宮崎県児湯郡川南町)

### 独自に開発した技術の組み合わせにより優良苗木の大量安定生産を実現

林田氏は、小型挿し穂による育苗技術を確立し、母樹1本から300本以上（通常100本弱）の穂木の採取に成功するとともに、挿し木の挿しつけ時期を露地苗用の春期とコンテナ苗用の秋期に分散化させることで労務の平準化を図り、安定した大量生産を実現しています。

また、宮崎県が開発したMスターコンテナ苗のパイオニアとして実用的な技術開発・改良の成果を数多く残し、指導的な役割も担うなど、地域の苗木生産者の模範となっています。



小型挿し穂

通常の挿し穂

## 平成29年度 内閣総理大臣賞



森下廣隆氏

(静岡県浜松市)

### 森林生態系に配慮した低コスト林業を実施する地域リーダー

森下氏は、間伐を中心とした長伐期施業により無垢材の使用にこだわった住宅向けの高齢級（80年生以上）の優良大径木を育成しており、一定の収入を生み出しながら安定した森林経営を実現しています。

地域の森林所有者に働きかけて林業機械の共同利用化や森林経営計画の策定を進めたことや、高密度路網整備による低コスト化の実現や環境に配慮した森林認証の取得等に取り組む姿は、これから個人の林業経営者が見習うべきモデルケースとして期待されます。



ハーベスターによる造材作業

## 平成 29 年度 日本農林漁業振興会会长賞



ひがしごうち  
東河内生産森林組合【代表 長野豊彦氏】  
(兵庫県宍粟市)



作業道と林分

### 地域住民の山づくりによる収益が地域づくりに還元

東河内生産森林組合は、森林を継続して管理経営していくため、低コスト団地の設定や、115m/ha の高密度路網を達成するなどして山から収入を生み出しています。

その収入は、分収契約を結んでいる自治会に配分され、自治会を通じて地域のイベントや女性の特産品づくり等の地域活動に活用されており、地域住民が森林に関わって管理・経営する生産森林組合の優良事例です。

### 11月10日(金)、11日(土)「実りのフェスティバル」



毎年恒例の農林水産祭「実りのフェスティバル」が開催されました（東京都豊島区）。

天皇杯等の受賞者の紹介のほか、様々なコーナーが設置され、林野庁ブースでは「木づかい運動」やウッドデザイン賞の紹介を行いました。スギやヒノキを中心とする地域の木材で作られた日用品やおもちゃなどの展示に、訪れた親子連れなど多くの方々が、木製品の香りや手触りなどを楽しむ姿が見られました。

会場内は、各都道府県や農林水産関係団体のコーナーで郷土特産物の展示や販売等が行われ、終日多くの方々で賑わっていました。

各種木製品をはじめとする展示で、木づかい運動やウッドデザイン賞をご紹介（サンシャインシティ展示場）